

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南信森林管理署

大鹿森林事務所

森林官 菅沼りりこ

大鹿森林事務所は、長野県下伊那郡大鹿村に位置していま



赤石岳などを含む大鹿村内の国有林

す。大鹿村には中央構造線が走り、山の中で塩水が湧き出す、ロマンと危険が漂う美しい秘境です。

管轄する森林は、赤石山脈(南アルプス)の赤石岳などを含む大鹿村内の国有林です。面積は約八、三〇〇haを有し、人工林・天然林比は一对九で天然林が多く占めており、登山地として多くの方に利用されています。

日頃の仕事としては、林野巡視から貸付けする土地の現地確認など、様々な業務を実施しています。森林での仕事以外にも、市町村・県・消防職員と協力した山火事予防パレードや、多種多様な会議への出席もあり、外部の方々との連携も重要な業務です。

このように、いろいろな仕事



山火事予防パレード

があります。地域に親しまれる国有林を意識して日々の業務を行っています。

■未来の担い手へのメッセージ

森林官は、私の小学生の頃からの夢でした。森林官になるためには、まず国家公務員試験に合格し、その後、様々な林野庁の業務を経験したのちに、よう

やく辿り着くことができます。余談ですが、私にとっては、今月がまさにその記念すべき月なわけです。

林野庁を一つの会社だとすると、日本一の大地主の会社に勤めていることになります。

また、人よりもかなり長い時間を生きる森林を相手にする仕事は、とても誇り高いものです。ある人から、森林を施業するには、曾祖父母の代から曾孫の代まで7世代を考えると言われたことがあります。

一国一城の主とも例えられる森林官は、地元の人の声を聴き現場で行動できる、かつこい仕事です。



駒ヶ岳登山にて



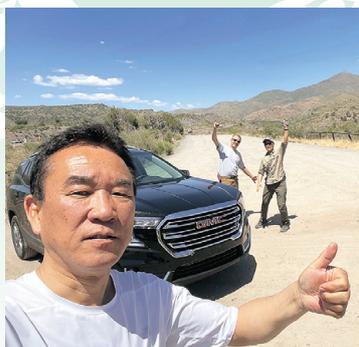
シリーズ

「私の森語り」

もりやた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「森太郎が残してくれたもの」



信越トレイルクラブ
代表理事
きむらひろし
木村 宏

■自己紹介

平成十六年に国有林の局境でもある関田山脈を主体として整備された信越トレイル。今回は開設のきっかけともなったブナの森の保全活動を紹介いたします。

■活動内容

平成十二年、林野庁は生態系の形成において重要な役割を果たしてきた国有林内の巨樹・巨木一〇〇選を発表しました。長野県では四つの巨木が選定され、そのうちの一つがブナの大木「森太郎」

でした。信越トレイルは、この森太郎の保全活動がきっかけで誕生したといっても過言ではありません。

当時、飯山市鍋倉山麓には名前がついたブナの大木がいくつもあり、毎週のようにこのブナに逢うためのハイカーが山麓に集まっていました。私は、飯山市の自然体験施設「なべくら高原・森の家」に勤務しており、ブナの森にお客様をいざないながらも、ハイカーによる山道や木の根元の踏圧、直接木肌に触れたり登ったりと、巨木ブナもさることながら周辺環境の破壊にもつながる行為に懸念を抱いていました。そこで、生態系に極力負荷を与えない山道づくりや、ブナとの接し方について啓発活動を行いました。

多くのボランティアの方々の「森太郎が、健全な姿でいてほしい」との想いが活動のすそ野を広げ、やがて、この道づくりが鍋倉

山麓にとどまらず、ブナの森が続く長野県と新潟県の県境の道の開削へと範囲を広げていきました。この道こそ斑尾山から苗場山までの歩く道「信越トレイル」一一〇キロなのです。



地域の里山の風景

■メッセージ

令和四年五月、「森太郎」が突然倒れました。毎年保全活動を通じ、観察を続けていたにもかかわらず、意外な（枯死寸前といった印象はありませんでした）結末を迎えました。「森太郎」は四〇〇歳という地球上でも最も長生きな生態としての価値や森が長い年月をかけて更新していく様、森の中での巨木の立ち位置や動植物との関わりなど、様々なメッセージを発信し続けてきました。倒れてもなお、木の幹に新たな木の芽や菌茸類が寄生し、横たわった幹の周りには日が当たり、新たなブナの若木が

成長し始めています。森の生態、代替わりの仕組みを我が身をもって観察しなさい、と言っているようです。信越トレイルはこのブナの森の保全活動と同じく、生物多様性を基本とするガイドラインを掲げ、人と自然の共生を念頭に置いた活動をしています。まさに「森太郎」の教えを実行しているのです。



倒れても森林や人を育てる森太郎

○連絡先

飯山市照岡1571-15
NPO法人
信越トレイルクラブ事務局
<https://www.s-trail.net/>



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第36回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「長野営林局庁舎」

現在の中部森林管理局の庁舎は、昭和三十一年に竣工した旧「長野営林局」の庁舎が使われています。昭和二十二年に長野営林局が発足した当時は、本連載「帝室林野局木曾支局庁舎」(令和五年三月号)でご紹介した長野県福島町(現在の木曾町)の庁舎でしたが、これ

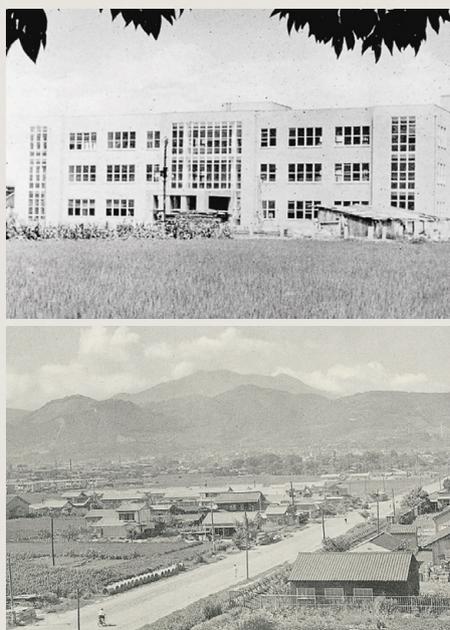


昭和30年頃
建設途中の長野営林局庁舎

が長野市に移転することとなります。

この当時の道路事情では、福島町から長野市への自動車での移動に七時間以上かかったと伝えられます。移転物資の運搬には営林局・各営林署の官用トラックが動員され、移転時期には毎朝十五台程のトラックが発発していたそうです。

「下写真 昭和三十一年の竣工当時の庁舎」



「下写真 昭和三十一年当時の庁舎屋上からの風景」

建設当時の庁舎周辺は田畑が多く広がり、どこか浮いた存在の建物だったとのことですが、昭和三十年代・四十年代の高度経済成長期には徐々に周辺の開発も進んでいきました。

また、かつては庁舎内に売店や電話交換室やタイプ膳写真室、敷地内に弓道場やテニスコート、時代によってはゲートボール場などがあつたそうです。

昭和四十三年五月にセスナ機から撮影された庁舎



長野営林局庁舎は平成十一年三月の国有林野事業の再編により中部森林管理局の庁舎となり、その後の耐震改修工事などを経ながらも現役の庁舎として使われ続けています。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。



特異な山体に広がる原生的な森林

笠ヶ岳希少個体群保護林

設定目的

志賀高原の笠ヶ岳(二、〇七六^{メートル})は上信火山帯に位置しており、オオシラビソ、シラビソ、ダケカンバ等により構成されている原生的な天然林の保護・管理をしています。

地況・林況

笠ヶ岳は、約五万年前に地下のマグマが地表付近で固まり、噴火寸前で活動を停止した鐘状火山です。その独特の山体の北斜面に広がる当保護林には、右に示した樹種のほかブナやコメツガ等がみられ、露岩が多い山頂付近にはハイマツも分布しています。

所在地
長野県 下高井郡 山ノ内町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育、生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

Good Wood Workers

「フォトコン」作品からもっと伝えたい林業の魅力!



作品名:「ロックオン」

下島さん

作品のことを教えてくださいー!

写真をよく見ていただくと雪が舞っているのが分かると思います。寒い冬にヒノキを伐倒している姿を撮影したもので、作品を通して林業の楽しさというより、厳しい部分を見せたいと考えました。

「中部の森林 林業従事者写真コンテスト(フォトコン)」に入選された有限会社ヤマカ木材の下島さんに、撮影した当時の想いや林業などについて取材をしたのでご紹介します。



湯之上さん(左)と下島さん(右)

国有林の

伐倒現場を取材してみよう!

作品のモデルになられた湯之上さんが木曾森林管理署南木曾支署管内の国有林において伐採作業をしているとのこと、現場へ向かいました。お会いするまでは無口な職人のような方を想像していましたが、実際は、とても気さくな動物好きのお兄さんでした。

自分は会社の事務を担当していますが、現場の従業員たちは厳しい条件下でも、より安全に伐倒できるよう、徹底的に指導を受けています。森林内で働く姿を見てもらったり、知ってもらったりすることで、子どもたちが将来なりたい職業の上位に「山師」をランクインさせたんです。

山でシカなどの生き物に会うのも楽しみの一つとのこと、ヘルメットなどの装具類にもこだわりを持ち、伐採の技術面だけでなく、山師としての前向きな発言がとても印象的でした。

現在、どこの業界でも人材の確保が課題となつていますが、普段は人目につかない山の中で、安全に直結するチームワークを大切に働く林業従事者の皆さんの紹介を通じて、これからも森林・林業の魅力伝えていきたいと考えています。

◆有限会社ヤマカ木材のご紹介◆

全国有数の良質材の産地、木曾谷で十七名の山師(作業員)が木曾ひのぎを中心に伐採、搬出を行っています。

急傾斜地が多く集材機による架線集材が主流の地域ですが、近年では欧州製のトラック型タワーヤードとウッドライナーを駆使し、生産性と安全性の両立を実現しています。

取材協力/有限会社ヤマカ木材
電話 0264-57-2538

https://www.instagram.com/yamaka_mokuzai/



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

この職場でも多くの方が悩まされている「花粉症」。春が来た喜びを素直に表現することが申し訳ないような気になります。幸い私の貯留タンクにはまだ余裕があるので、現時点では各種花粉とは敵対することなく融和関係を維持しています。ある日突然発症すると聞いていますので、いつかは私も仲間入りする日が来るのかもしれませんが。

令和6年度の林野庁予算には「花粉症解決に向けた緊急総合対策」としてスギ人工林の伐採・植替え等の加速化や花粉の少ない苗木の生産拡大などが盛り込まれています。花粉症の方にとっては目の敵かもしれないスギですが、「お山の杉の子」に歌われたように、戦後、荒廃した山へ期待を込めて植林されました。今後伐採された暁には、いきなりバイオマス燃料ではなく、様々な資材として利用されることを願っています。



ヤマカ木材では、伐採後に発生する末木枝条等を集荷し、バイオマス燃料とするために現地でチップ化しています。これにより、この後の造林に向けた地拵えや植付けなどの仕事がしやすく、作業効率が上がります。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

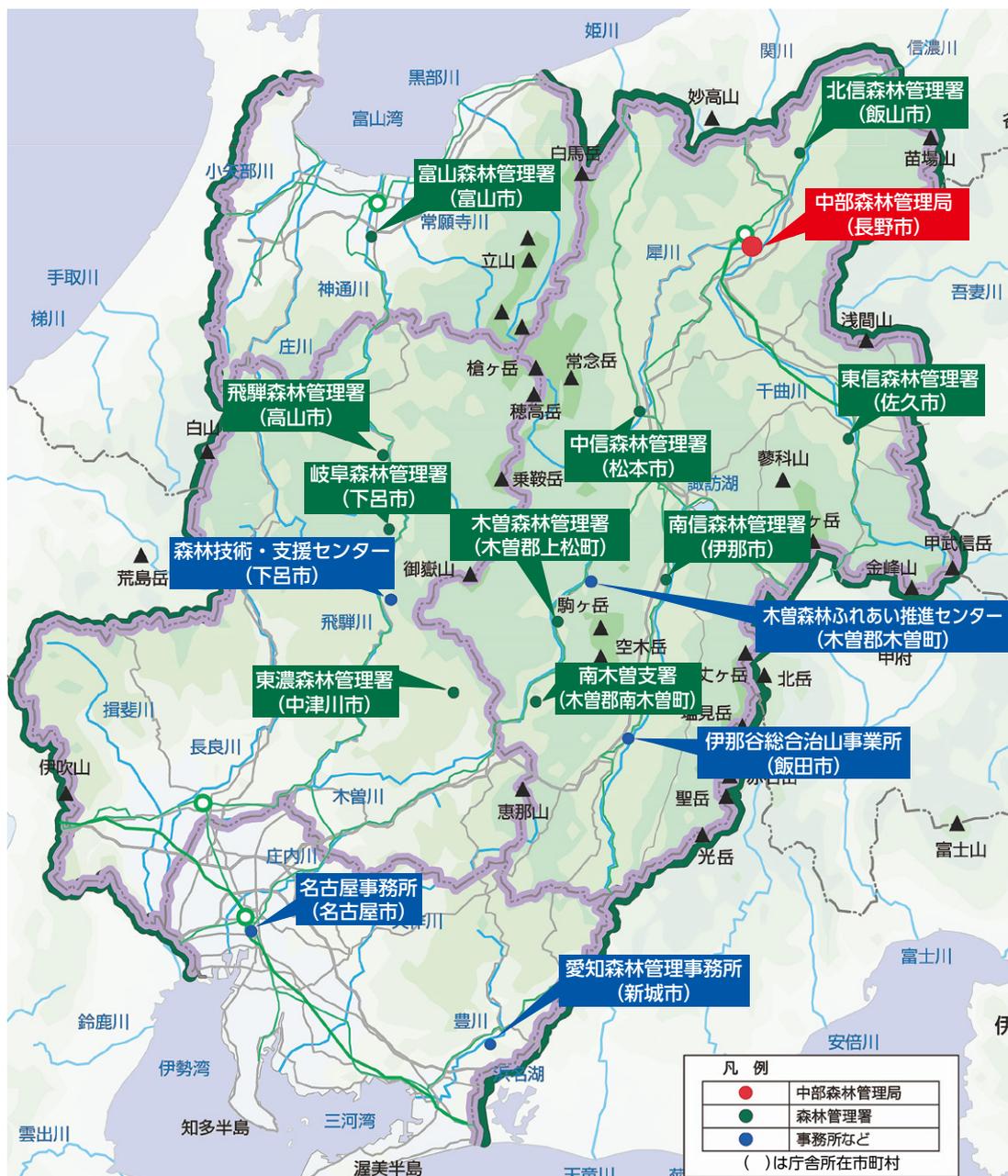


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。